

平成18年度国土施策創発調査

京都を中心とした歴史都市の総合的魅力向上に係る
修学旅行生に対する体験プログラムの発掘と情報発信
に関する調査報告書

平成19年3月

国土交通省近畿地方整備局

京都市・大津市・宇治市

■ 目次

1	調査の目的	2
2	調査の内容	
(1)	修学旅行生が班別自主研修で必要とする情報の収集と分類	6
(2)	学校，保護者及び旅行エージェントが班別自主研修に必要な情報に関する検討	7
(3)	情報の効果的な発信方法の検討	7
(4)	体験プログラムの発掘・開発に関する検証	7
3	調査結果	
(1)	修学旅行生が班別自主研修に必要な情報に関する検証結果	9
(2)	学校，保護者及び旅行エージェントが班別自主研修に必要な情報に関する検討結果	3 1
(3)	情報の効果的な発信方法の検討結果	3 3
(4)	体験学習プログラムの発掘，開発に関する検証結果	4 0
4	まとめ	4 2

1 調査の目的

歴史都市における観光の魅力向上のためには、既存の観光素材の魅力に磨きをかけると同時に、新たな観光素材の発掘・開発が重要である。特に、新たな観光素材の発掘・開発は特定の観光地に集中しがちな観光客の分散にも有効である。

また、観光を一過性の「ブーム」に終わらせるのではなく、持続可能なものとするためには、地域住民の理解・協力が必要不可欠であり、とりわけ、体験型観光を推進することは、観光客の満足度の向上だけではなく、住民と観光客の交流を促進し、相互理解を一層深めることにも繋がる。

そして、実際に観光客に訪問してもらうためには、これらの情報を観光客の視点でわかりやすく、効率的に発信することが必要である。

本調査においては、「修学旅行」をテーマに、体験プログラムの発掘と情報発信に関する検討を行う。修学旅行は少子化の進展により年々縮小している市場であり、今後とも「数」の上では過度な期待がしにくい分野である。しかし、修学旅行がもたらす真の効果は、修学旅行で訪れた学生がその土地に好印象を持ち、その後リピーターとなって再びその土地を訪問することが期待できることにある。このことは、歴史都市をはじめ全国の自治体が、官民挙げて予算と人的資源を投入して修学旅行誘致にしのぎを削っていることから容易に推察できる。

明治19年に我が国で初めて修学旅行が実施されて以降今日まで、京都は修学旅行のメッカとしての地位を保ってきた。その理由として京都が寺院などの文化財を始めとする豊富な観光素材を有していたことによるところが大きいですが、それだけではない。常に、京都はその時代が求めるニーズに的確に応えてきたためである。

今や、中学・高校はもちろんのこと、小学校の修学旅行においても班別行動や体験学習が取り入れられる時代に突入し、体験プログラムに対するニーズは高まる一方であり、そのニーズはますます多様化してきている。

本調査においては、歴史都市をはじめとする全国の都市が修学旅行誘致・受入を促進するための参考になるように、体験プログラムの発掘と開発に関する調査を実施するとともに、修学旅行生や教師、旅行会社が必要なあらゆる情報をワンストップで入手できる情報発信のあり方について検証を行う。

○京都への修学旅行

少子化により修学旅行対象生徒数は年々減少し、修学旅行生誘致の都市間競争が激化する中で、京都への修学旅行客数は、平成17年では100万5千人と、対前年比0.2%減となったものの、100万人の大台を維持している。

修学旅行全国対象生徒数及び京都修学旅行客数の推移

(単位:千人)

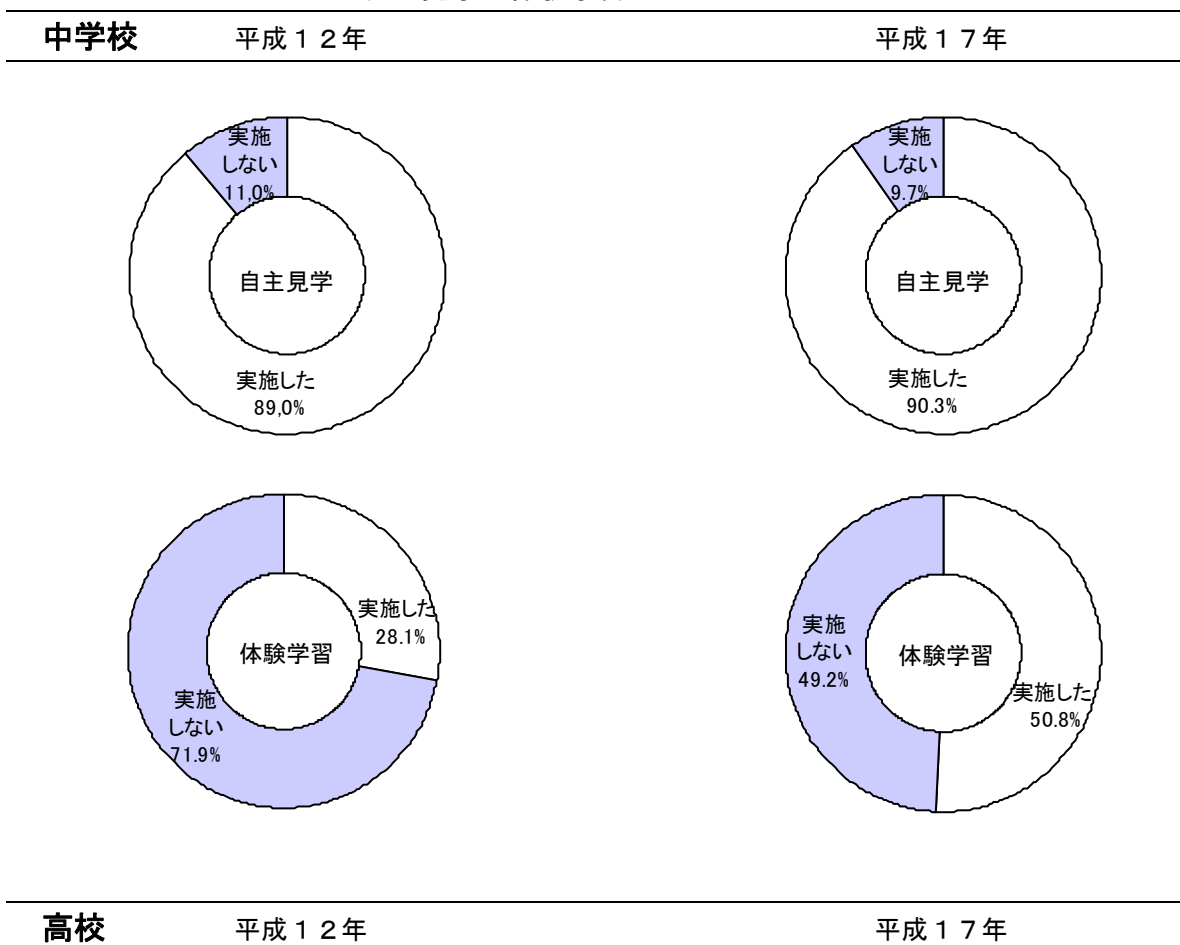
	全国対象生徒数(年度)					京都修学旅行客数(年次)				
	小学校	中学校	高校	総数	指数	小学校	中学校	高校	総数	指数
昭和59年	－	－	－	－	－	182	704	570	1,456	117.89%
昭和60年	－	－	－	－	－	183	690	572	1,445	117.00%
昭和61年	1,984	2,007	1,669	5,660	101.36%	174	696	559	1,429	115.71%
昭和62年	1,863	2,046	1,759	5,668	101.50%	169	690	523	1,382	111.90%
昭和63年	1,776	2,051	1,827	5,654	101.25%	134	652	470	1,256	101.70%
平成元年	1,734	1,983	1,867	5,584	100.00%	119	634	482	1,235	100.00%
平成2年	1,681	1,861	1,870	5,412	96.92%	135	557	462	1,154	93.44%
平成3年	1,623	1,745	1,839	5,207	93.25%	131	531	443	1,105	89.47%
平成4年	1,523	1,733	1,770	5,026	90.01%	127	520	373	1,020	82.59%
平成5年	1,511	1,681	1,688	4,880	87.39%	116	523	406	1,045	84.62%
平成6年	1,512	1,623	1,648	4,783	85.66%	143	597	409	1,149	93.04%
平成7年	1,502	1,523	1,599	4,624	82.81%	129	534	351	1,014	82.11%
平成8年	1,465	1,511	1,555	4,531	81.14%	134	538	340	1,012	81.94%
平成9年	1,412	1,513	1,419	4,344	77.79%	121	541	276	938	75.95%
平成10年	1,367	1,504	1,385	4,256	76.22%	124	577	260	961	77.81%
平成11年	1,327	1,466	1,382	4,175	74.77%	124	600	255	980	79.35%
平成12年	1,300	1,411	1,369	4,080	73.07%	125	608	252	986	79.84%
平成13年	1,239	1,366	1,340	3,945	70.65%	120	617	289	1,026	83.08%
平成14年	1,214	1,326	1,279	3,819	68.39%	108	626	297	1,031	83.48%
平成15年	1,217	1,300	1,253	3,770	67.51%	123	612	284	1,020	82.59%
平成16年	1,203	1,238	1,222	3,662	65.58%	122	602	283	1,007	81.54%
平成17年	1,192	1,212	1,197	3,601	64.49%	118	614	273	1,006	81.46%
平成18年	1,232	1,214	1,185	3,631	65.03%					0.00%

出典 ・(財)日本修学旅行協会発行修学旅行のすべて(全国対象生徒数)

・京都市観光調査年報(京都修学旅行客数)

一方、近年の修学旅行の形態は、これまでの貸切バスで主要観光地を巡る団体行動から、公共交通機関やタクシーを利用した班別行動へと変化しており、学校においても班別自主研修を実施するに当たって、「学校の総合的な学習時間」に適合した体験学習を取り入れた事前学習に積極的に取り組む傾向にある。

自主見学と体験学習 （出典：（財）日本修学旅行協会発行修学旅行のすべて）



事前学習に必要とされる観光・交通情報等は、1箇所を集積されておらず、それぞれが断片的で不十分といった課題がある。また、修学旅行生の維持・拡大を図るためには、歴史と文化を活かした体験学習プログラムの更なる発掘・開発と情報発信は欠くことのできない喫緊の課題である。

このため、本調査を通じて、班別自主研修や事前学習に必要なあらゆる観光情報の収集・分類を行い、体系的でわかりやすい情報発信に努めるとともに、体験学習プログラムについては、これまで未実施であった寺院や神社、文化施設等に対してもプログラムの開発を働きかけ、課題の抽出や体験メニュー実現に向けた支援を実施し、新たなプログラムの発掘・開発を行う。

本調査で得られた情報は、ホームページ上で発信するとともに、体験プログラムについては、冊子として刊行する。

2 調査の内容

(1) 修学旅行生が班別自主研修に必要な情報に関する検証

修学旅行生が班別自主研修で必要とする情報の収集と分類・分析

・ 京都の歴史

1200年の歴史を有する京都の歴史は、そのまま日本の歴史であると言っても過言ではない。京都への修学旅行を充実したものとするためには、事前学習で京都の歴史を学ぶことが欠かせない。

・ 京都の文化

京都は千年以上日本の首都であり続けた世界的に見ても稀有な都市である。そこには、宮中文化をはじめ美術、文学、芸能、茶道、華道など多彩な文化が花開いた。

・ 京都の産業

京都は観光都市、文化都市、宗教都市、大学のまちなど多くの顔をもつが、京都はまちづくり都市でもある。現在まで伝統産業が脈々と受け継がれる一方で、世界的な先端産業の本拠地が多数所在している。近年修学旅行のメニューで増加傾向にある企業体験、職業体験などの社会体験を受ける際の事前学習として、京都の産業を学習する意義は大きい。

このような、事前学習に必要とされる京都に関する多面的な学習情報を、効果的に提供することを検討する。

・ 寺社、観光施設、文化施設

修学旅行生が班別自主行動において、よく訪れる寺社、観光施設、文化施設を、学校関係者や旅行代理店、観光ガイド等からのヒアリングを通じて抽出した上で、各施設に対して調査を行い、情報の収集・分類・整理を行う。

また、多くの京都の寺社では、修学旅行生用のパンフレットは制作されておらず、一般用のパンフレットしかないため、難解なものとなってという。そこで、中学生でも理解できるように、平易でわかりやすい解説について検討を行う。

・ 体験学習施設（文化財等も含む）

修学旅行における体験学習の比重は年々増加しており、今や、どういう体験ができるかが、修学旅行目的地を決定する鍵となっているが、その情報は断片的である。

そこで、これまで各施設が創意工夫を凝らして実施してきた体験学習プログラムを本調査において一元的に収集する。

- ・ 交通案内

中学校、高等学校の修学旅行は、かつての貸切バスで観光地から観光地へと移動する団体行動から、数名のグループで公共交通機関を利用して行動する班別自主研修へと変化している。

このため、今日の修学旅行において、公共交通機関の情報は欠かすことのできないものであり、各交通機関の情報を集約して効果的に発信する方法を検討する。

- ・ その他修学旅行生に必要な情報

その他修学旅行生が必要とする情報、たとえば各施設・店舗において修学旅行生割引や優待が受けられる情報等について集約する。

(2) 学校、保護者及び旅行エージェントが班別自主研修に必要な情報に関する検討

- ・ 安心、安全に関する情報

修学旅行に際して、学校や保護者が最も重視するのが、旅行中の安全である。そこで、本調査では、生徒の京都滞在中の安否情報の提供をはじめ、安心、安全情報の発信方策について検討を行う。

- ・ バリアフリー情報の収集と発信

すべての児童・生徒が京都で楽しく滞在できるように、車椅子で拝観できる寺院や点字メニューがある旅館などの情報を調査・収集する。

(3) 情報の効果的な発信方法の検討

上記(1)(2)で収集・分類した情報をホームページ上で効果的に発信するための検討

- ・ 施設情報と地図のリンク

ホームページ上の寺社や施設等の情報と、地図とを相互リンクさせることにより、情報収集を容易にするための方策を検討する。

- ・ テーマ別モデルコースの設定

班別自主研修の実施に当たり、日程やコース作りをサポートするため、テーマ別モデルコースの設定を検討する。

- ・ 安否情報について、教師が携帯電話から入力することにより、ホームページ上で保護者が確認できるシステムの構築

修学旅行に際して、学校や保護者が最も重視する安心・安全情報について、京都滞在中の生徒の安否情報を、教師が携帯電話から入力することによりホームページ上に発信するシステムについて検討を行う。

(4) 体験学習プログラムの発掘、開発に関する検証

既存の体験学習情報の収集とは別に、体験学習未実施の寺院、神社、文化観光施設等に対して、体験学習実施に向けた課題の抽出と条件整備、開発支援(実施ノウハウの提供)を行う。

なお、調査については、将来的に修学旅行生だけではなく、一般観光客や外国人観光客も利用することを踏まえた内容とする。

3 調査結果

(1) 修学旅行生が班別自主研修に必要な情報に関する検証結果

・京都の歴史

平安時代、鎌倉～室町時代、安土桃山～江戸時代、幕末以降と時代別に分け、歴史の縦軸と現在ある京都の横軸とを学ぶことで立体的な歴史感覚を育てる必要がある。

●平安時代



●鎌倉～室町時代



●安土桃山～江戸時代

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying "http://www.kyoto-u.ac.jp/~kyotolife/kyoto/kyoto.html". The page is titled "京都を学ぼう" (Learn about Kyoto) and features a navigation menu with links to "京都の概要" (Overview of Kyoto), "京都の歴史" (History of Kyoto), "京都の文化" (Culture of Kyoto), and "京都の産業" (Industry of Kyoto). The main content area is titled "京都の歴史 安土桃山～江戸時代" (History of Kyoto: Azuchi-Momoyama ~ Edo Period) and includes a sub-header "京都の概要" (Overview of Kyoto). The text describes the city's role as a center of power and culture during the Edo period, mentioning the influence of the shogunate and the city's unique position as a gateway to the interior. It also mentions the city's role in the development of the Edo period, particularly in the context of the shogunate's policies and the city's unique position as a gateway to the interior.

●幕末～

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying "http://www.kyoto-u.ac.jp/~kyotolife/kyoto/kyoto.html". The page is titled "京都を学ぼう" (Learn about Kyoto) and features a navigation menu with links to "京都の概要" (Overview of Kyoto), "京都の歴史" (History of Kyoto), "京都の文化" (Culture of Kyoto), and "京都の産業" (Industry of Kyoto). The main content area is titled "京都の歴史 幕末～" (History of Kyoto: Meiji Period ~) and includes a sub-header "幕末は政治の中心" (Meiji Period: Center of Politics). The text describes the city's role as a center of political activity during the Meiji period, mentioning the influence of the shogunate and the city's unique position as a gateway to the interior. It also mentions the city's role in the development of the Meiji period, particularly in the context of the shogunate's policies and the city's unique position as a gateway to the interior.

・京都の文化

体験などの事前学習をはじめ、京都には学ぶべき文化が多くある。古典文学、伝統文化、美術、祭、食と暮らしの項目に分けて、文章のほかには表や写真も入れる。

●古典文学



●伝統文化





●祭



●食と暮らし

